

新型コロナウイルス感染症 緊急事態宣言拡大に配慮し、当面のイベント中止

1月30日 市民と議員の意見交換会は中止し、延期します

新型コロナウイルス感染症は11月から始まった「第3波」が年末から爆発的な広がりを見せて、一部地域では医療崩壊が現実のものになっています。政府は8日から発令した首都圏に続き14日から兵庫県など7府県にも宣言対象地域を追加し、外出自粛など社会経済活動などの抑制を求めています。

昨年の第1波のあと、抜本的な医療・保健体制の強化に手を付けず、東京五輪開催の足かせと経済優先の配慮が爆発的な感染拡大につながり再度の緊急事態宣言発令につながったという批判はありますが、ここはまず破滅的な危機を避けるためにも感染回避策を市民一人ひとりが取る必要があると考えます。

このため、当面する上記の意見交換会を中止・延期するとともに、感染状況の改善が見られない場合には2月20日に予定している第27回市民まちづくり講座も延期を検討します。

市民の皆様も、自らの感染回避と感染拡大を避けるための行動を心がけていきましょう。

次期・長期総合計画の策定に、市民参画のプロセス重視を求める請願書

自民、公明、スマイルの3会派が反対し不採択

明石市の長期的なまちづくりの目標を10年ごとに定める「総合計画」は第6次長期総合計画を策定する作業が現在進められていますが、市民自治あかしはこの計画づくりのプロセスで市民参画を重視するように求めた請願書を昨年12月議会に提出しました。しかし、未来明石、維新、共産、フォーラム、かがやきの5会派12名の議員は賛成しましたが、自民党真誠会と公明党、スマイル会の議員17名が反対し、不採択になりました。

長期総合計画は自治基本条例で「市政を総合的かつ計画的に運営していくための基本となる計画」として規定し、「市民参画の下で定めなければならない」と明記しています。10年前に策定された現行の第5次計画（2011～2020年度）の計画期間満了が迫った2019年3月、市は次期6次計画（2021～2030年度）の策定方針を市議会に説明しましたが、すでに審議会やそこへ至る前作業、市民参画のプロセスを考えた場合には極めてタイトなスケジュールになっていました。

その後、市は次期計画を「あかしSDGs推進計画」（仮称）として定めるとし、昨年2月にやっと審議会を発足させましたが、3月に設定した第2回審議会は新型コロナウイルス感染症の第1波が拡大する中で延期せざるを得なくなり、6月になって「現行計画を1年延長し、次期計画の策定期間を1年先延ばしして、計画期間を2022～2030年度とする」方針を市議会に説明しました。

1年先送りした際に「市民参画および審議会ですべて丁寧かつ十分な検討を行う」としていましたが、その後も具体的な審議会や市民参画のアプローチがないまま12月16日の議会特別委員会に計画の「骨子案」が報告されました。これまでの経過をみても「市民とともに、市民と共有できる計画」づくりの趣旨に反して行政主導で進められているくらいが濃厚です。

審議会はすでに素案の審議に入っており、今年は7月まで3回の審議会ですべて素案を決定し9月議会に報告する予定で、市は骨子案への意見募集と素案の説明会、パブコメをもって市民参画の手順としています。コロナ禍の影響があったとはいえ、市民参画の丁寧なプロセスを省略した短い期間の策定プロセスに、市民参画の空洞化を危惧します。

市民まちづくり連続講座 in 明石 2021年の講座開催計画

回	日 時	テーマと内容	会 場
27	2月20日(土)	明石の飲料水はどうなる—琵琶湖導水を考える (仮題)	ウイズ あかし 8階グリーンスペース
28	3月27日(土)	まちの緑を考える—SDGs推進と工場緑地面積率の緩和	ウイズ あかし 8階予定

※今後のコロナ感染の進展状況により、開催日程の変更があるかもしれませんので、ご注意ください。

12月議会への請願9件、過去最多 5件は不採択 まだら模様の背景?

類似した請願でも請願者により明暗 市民の声を反映させるのに立ちはだかる議会運営の壁

昨年12議会に提出された請願は、合計9件にのぼった。議会局によるとここ10数年では最大の請願件数で、おそらく明石市議会で過去最大の請願件数とみられる。学校の少人数学級推進関係2件、核兵器禁止条約の署名推進関係2件のほか精神保健医療福祉、再審法改正、工場緑地面積率の緩和、SDGs、長期総合計画に関するものが各1件ずつの内訳だ。

採択された請願は、全会派全議員の賛成で採択された「教職員の定数改善、少人数学級の推進」(明石市教職員組合、紹介議員=未来、共産、フォーラム、かがやきの4名)と「精神保健医療福祉の改善」(明石ともしび会と同家族会、紹介議員=全会派7名)の2件。明石商工会議所が請願人となり、大手工場の要請に応じて工場緑地面積率の緩和を求めた請願(自民党真誠会と公明党の2議員が紹介議員)は共産党2議員が反対、未来明石の丸谷議員が棄権し26人の賛成で採択された。また、市民団体「地球love明石」が自民と維新を除く全会派の紹介議員を得て提出した「環境を重視した持続可能なまちづくりを求める」請願は、自民党真誠会を除く19議員の賛成で採択された。

これに対して、議員の過半数を占める自民党真誠会10人(議長除く)と公明党6人が反対した5つの請願は不採択になった。このうち総合計画策定に際しての市民参画を求めた請願は上記2党派と一人会派のスマイル会以外の党派がすべて賛成し賛否は12対17と拮抗したが、他の4件は未来と維新も反対して賛成は6人または5人にとどまった。賛成が5人にとどまった請願はいずれも核禁条約の署名を求めたもので、フォーラムのうち宮坂議員が棄権した。

賛否の「討論」なぜしない? 「議員間討議」避け続ける市議会

請願の本会議審議で賛否が分かれた7件の請願のうち6件についてはそれぞれ1名ずつ討論に立ったが、いずれも賛成または反対の討論だけで対立する意見の表明はなかった。工場緑地面積率の緩和を求める請願に反対する共産党が反対討論を論じたが、賛成した26名からはだれも討論に立たなかった。逆に共産党議員だけが紹介議員になり不採択になった4件は、共産党議員が賛成討論に立ったが、反対した23名からはだれも反対討論に立たなかった。

また、賛否が大きく割れた「環境を重視した持続可能なまちづくりを求める」請願には自民党真誠会が反対討論に立ったが、賛成した7党派19名からは誰も賛成討論に立たなかった。賛否が拮抗した市民自治あかしの市民参画の請願は、だれも討論に立たないまま、採決だけで不採択になった。

明石市議会は議会基本条例で「議会が言論の府であること及び合議体であることを認識し、議員相互の自由な討議を重んじ、合意形成に努める」と定めているが、条例施行後7年を経た今も「議員間討議をしない」という申し合わせをしている。賛否の意見を討議し、合意形成に努めるのではなく数だけで決める“非合議機関”になっており、その象徴が請願審議に象徴的に表れている。

今回の請願審議でも延べ3名の棄権(採決時退場)があったが、これも「同一党派内での相反する賛否」を避けるという申し合わせから常態化している。議員の議決権を縛るかのような申し合わせが変則的な議決行使につながっている。

市民の提案が議場で堂々と議論される議会風土が、一日も早く実現するようにしたい。

2020/12議会 請願9件の審査結果 2020/12/22

No	号	請願項目	請願者	紹介議員	自民党 真誠会	公明	維新	未来	共産	フォーラム	かが やき	スマ イル	賛成	反対	採否
1	7	教職員の定数改善、少人数学級推進	市教組	竹内、出雲、辻本、吉田	○	○	○	○	○	○	○	○	29	0	採択
2	9	精神保健医療福祉の改善	明石ともしび会	全会派	○	○	○	○	○	○	○	○	29	0	採択
3	6	工場緑地面積率の緩和	商工会議所	三好、梅田	○	○	○	○△1	×	○	○	○	26	2	採択
4	13	SDGsで持続可能なまちづくり推進	地球love明石	自民と維新除く全会派	×	○	○	○	○	○	○	○	19	10	採択
5	12	長期総合計画策定に市民参画重視	市民自治あかし	出雲、辻本、林丸美	×	×	○	○	○	○	○	×	12	17	不採択
6	5	再審法改正を求める意見書提出	国民救援会	辻本	×	×	×	×	○	○	○	×	6	23	不採択
7	8	少人数学級の実現	新日本婦人の会	楠本	×	×	×	×	○	○	○	×	6	23	不採択
8	10	核兵器禁止条約の署名・批准	原水協明石	辻本	×	×	×	×	○	○△1	○	×	5	23	不採択
9	11	核兵器禁止条約の調印	新日本婦人の会	楠本	×	×	×	×	○	○△1	○	×	5	23	不採択

「号」は議案番号

△棄権
丸谷
△棄権
宮坂